

BCAO関西支部 平成27年3月度 第97回勉強会議事録

日時： 2015年3月25日(水) 18:15~20:30

場所：大阪駅前第2ビル 生涯学習センター F5 第3研修室

司会：徳永 書記：野原

出席者： 18名(順不同、敬称略)

萩原、鷺山、伊藤(高)、日下、久保田、福島、大館、田中、深井、増穂、小山、西野、木村、原田、中村、櫻本

議事内容：

1. 平成26年度 3ワーキンググループの活動報告

・BCバックグラウンドWG、WBC WG、エネルギーWG

紹介 各10分、質疑応答 全体で10分

質疑応答

■BCバックグラウンドWGについて

Q. BCバックグラウンドWGにおける論点・結論、目指すゴールとは。

A. 参加メンバーのBCPの対するそれぞれの思い(考え方)があり、その思いのすり合わせ、お互いの考えを理解する、BCのバックグラウンドを見極め考えるところにある。

BCバックグラウンドWGはBC全体の課題を俯瞰して、それぞれの立場から発せられる様々な考えを尊重・確認しつつ習熟を進めることを目指す。

■エネルギーWG

Q. エネルギーのベストミックスの話があったが、あの比率はどこか根拠のある数字か？

A. 特定の組織や団体の出している数字ではなく、WGで仮に設定したもの。再生可能エネルギーについて政府は20%以上を目標としており、20%とした。原発は40年廃炉基準適用で2030年に15%となるが、経団連は最低25%必要としており、新增設もあるので20%とした。コジェネ(熱電併給)は民主党政権時代に15%としており、これを入れると残りの火力は45%となる。これは一つの可能性であり、引き続き検討したい。

2. 新規入会者のご紹介

株式会社 ディー・オー・エス 木村 信弥 様

3. ビデオ学習 「サプライチェーンとBCM」

講師：山口 修氏(インターリスク総研)

■意見交換

- ・マーケティング手法の転用できれいに説明しており、管理する部材を、マッピング、グルーピング、セグメント化まではよいが、マッピング、グルーピングを相対的分布にしたのでは、一つ一つの紐付けができないし、ボトルネックが落ちてしまうのでは。ないかと考える。
- ・グルーピングの意味がないのでは。企業が調達している部材は、多種多様で調達の量や、代替性の難易度も異なるため、あのようなきれいなグルーピングできる形にならないのでは。
- ・他社との差別化、独自性を出そうとするとどうしても代替性の難しい部材を使わざるを得ない。
- ・P18「2-1. 基本戦略の確定」であった、I~IVの各セグメントの対策についての考え方としてはよいと思う。
- ・対象として、1次サプライヤーのみとなっているが2~5次に対しての考察がない。
- ・分析のモデル作りとしてはきれいだが、影響度分析を重ねると実態との誤差が大きく生じるのでは。
- ・緊急時に使用するために利用できるものが必要で、もう少し泥臭く作成したほうがよいのではないか。
- ・緊急時は、サプライヤー、部品をキーに状況確認するのではなく、生産拠点の住所が、キーになるのではないか。自社のサプライヤー管理は2次まで管理し、データには必ず生産拠点を含み、県、市町村単位でソーティングし、有事の際に優先順位を付けて確認できるようにしておくことが重要。生産に影響があるかどうかはすぐにはわからない。災害発生当時は生産に影響なしと回答していたサプライヤーが3日後に生産できない旨の報告を受けた事例があった。いち早く影響を推測するためには生産拠点がキーとなる。
- ・某食品メーカーでは、この取り組みを現場に下すことはできなかった。
- ・緊急対応フローの整理や、サプライヤーのBCPレベルの底上げから行うべきと考える。
- ・ポートフォリオはこの使い方もあると思うが、調達金額の大小よりは、原料の価値や品質、差別化が大きい。また、ここには、時間軸がほとんど入っていない。一部入っているかもしれないが、時間軸に対する切り口が非常に弱い。
- ・目標復旧時間があったが、もう少し柔軟に考えてもよいのではないか。3週間は基本戦略にあるのは間違いないが、その目標復旧時間とポートフォリオとの融合・説明ができていない。
- ・表の作り方の話があったが、コンサルティング目線で、資材調達部門では容易にサプライヤーへの指導等できない。東日本大震災発生後は、BCP取り組みの依頼もしやすくなったが、現実には、自社の取り組みを、あくまでも参考としてサプライヤーに紹介し、サプライヤー自身で取り組みを実施いただく形で進めている。

以上